

令和3年度 第17回安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館 研究活動発表会 理事長挨拶

公益財団法人広島市みどり生きもの協会の「第17回安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館研究活動発表会」の動画配信に当たり、御挨拶申し上げます。

平素から、本協会の活動について格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

また、皆様には、大変お忙しい中、ご視聴いただきまして誠にありがとうございます。本事業は、令和4年2月5日に、5-Days こども文化科学館アポロホールで開催することとして準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場での開催は中止といたしました。

こうした中、楽しみにしておられた皆様の期待に少しでもお応えしたいと思い、動画(録画)の配信という形で発表することといたしました。

本協会は、現在、広島市の指定管理者として安佐動物公園・植物公園・こんちゅう館の3園館の魅力向上に取り組むとともに、生き物に関する調査研究、希少な生き物の繁殖など様々な活動を行っています。

安佐動物公園は昨年9月1日に、開園50周年を迎えました。展示動物の飼育についての研究に努め、オオサンショウウオの繁殖やクロサイの長期飼育では世界一を誇っています。今年は希少なマルミミゾウを導入する予定であり、現在、再整備に取り組んでいるところです。

植物公園は、昨年4月19日に総入園者1000万人を達成しました。ランの基礎研究やベゴニアのオリジナル品種の開発登録など実績がある国内有数の施設です。平成29年には、幹回りが日本一のオーストラリアバオバブをシンボルツリーとして大温室に導入し、令和元年の夏に導入後初めてオーストラリアバオバブの花が開花しました。その後、年々花の数は増えています。

また、中・四国地方で唯一の昆虫専門展示施設であるこんちゅう館も、ヒョウモンモドキなど希少種の調査・保全活動に取り組んでいます。

近年、絶滅の恐れのある希少な生き物の種の保存や生物多様性の保全を求める声が世界的に高まっており、そのための環境教育、普及啓発の場として、3園館が果たすべき役割は益々重要になっています。

本配信では、植物公園は、「国内最大の『オーストラリアバオバブ』の開花」について、安佐動物公園は、「立てなかった赤ちゃんキリン『はぐみ』の治療と現在の様子」について、こんちゅう館は、「タガメ幼虫の屋外多頭飼育」について、それぞれ発表いたします。

この発表会を通して3園館が果たしている役割について御理解を深めていただくと共に、協会としても、これまで以上に、市民の皆様にも愛される、魅力ある施設になるよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様の益々の御繁栄と御多幸を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

令和4年(2022年)2月12日

(公財)広島市みどり生きもの協会理事長 及川 享